



HKFA

TECHNICAL REPORT

U-14 北海道トレセンキャンプ（前期）

4月20日と21日の二日間、SSAP並びに東雁来公園にて、上記キャンプを行いました。二日間参加した選手と指導者のみなさんにとって、北海道のコンセプトを確認しながらトレーニングのテーマを共有し、充実した二日間を過ごすことができました。ご協力頂きました方々に感謝申し上げます。

FP 個人技術をもっと高める

強度の高い守備をされた時に「パスやコントロールがずれる」、「ボールキープができずに安易にボールを下げる」ことが多かった。個人としてもチームとしてもボールロストしないように少ないタッチ数でプレーすることは大切なことだが、この年代では少々強度の高い守備をされてもボールをキープしながら前方にプレーできるようにしていくことも大切だと考えている。ボールロストを怖がらせずに前にプレーしようとするところにもチャレンジさせたい。

また、強度の高い守備を掻い潜ることができるように「動きながらのプレー」を促していくとともに、「少ないタッチ数でのプレー」や「相手の守備が手薄なところへ素早くボールを運んで前にボールを運ぶこと」もできるように「観る・観ておく」ことも徹底していきたい。

FP

守備の基準

ボールの移動中にアプローチして奪い切る意識でプレーしているか、ボール状況を観て予測しながらプレーできているかなどに不十分さが見られた。

相手のボールも時間も判断も奪うことができるアプローチをして、1stDFが奪うことができなかったとしても2ndDFにインターセプトやボールを奪いに行く意識をしっかりと持たせること（ボール状況を観て判断）にコーチングする中で、1stDFが相手の懐に勇気をもって踏み込んで奪うシーンやボール状況を観て判断を変えながら2ndDFがボールを奪うシーン、チーム全体でボールサイドに移動しながら守備をしようとする動きが見られるようになった。

今後は、「個人でボールを奪い切るテクニックを上げること」や「抜かれたり外されても粘り強くついていくこと」、「常にボール状況を観ながら判断し続けて次でボールを奪うつもりでプレーし続けること」に働きかけていきたい。



GK**観る・分析する・予測する**

キャンプ初日の午前は、FPの守備のトレーニングに合わせてブレイクアウェイのトレーニングを行った。FWをつけた状態でピックアップかフロントダイブかプレッシャーをかけるかの判断に働きかけ、FPトレーニングへの合流後は、DFの背後を意識しながらプレーする姿や勇気をもってTRしたことにトライする場面が見られた。相手との距離が遠い状況でもブロッキングをしてしまうこと、プレッシャーはかけるが切り替えられてボールについていけない場面も見られた。

キャンプ初日の午後は、FPの攻撃のテーマに合わせてシュートストップのトレーニングを行った。角度のない状況で正しいポジションを意識してプレーすること、移動する際にサイドステップとクロスステップを使い分けること、次に起こることを予測しながら早く準備することなど、試合中の状況を意識しながらトレーニングを実施した。中央からサイドにパスをしてサイドからシュートを打たれた時にポジションがニアに寄り過ぎてしまうことが見られたため、ゴールエリアやペナルティーエリアのラインを意識してポジションを修正し続けることを求めた。またローリングダウンやダイビングのプレーでは個々のテクニックが発揮される場面が多かったが、強いボールを一回でキャッチできない時が多く見られた。

キャンプ最終日のゲームでは、試合の中でプレーする前の準備のところに課題が見られたが、準備に必要な「観る」、「分析する」、「予測する」を意識するように働きかけることで改善が見られたので、日常から意識しながらトレーニングするように伝えてキャンプを終えた。今後の成長に期待したい。

**CH****謝辞**

北海道内の多くの方のご協力によって、2024年度北海道トレセンU-14前期キャンプを終えることができました。関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。特に選手保護者様および所属チーム代表者様におかれましては、家族でのご予定や自チームでの活動もあるにも関わらず、選手の参加を許可してくださり、まことに有難うございました。

今後も北海道内で行われるトレセン活動へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

(公財)北海道サッカー協会
技術委員会(U-14部会代表) 白崎 健策